



# 週報

# VOL XVI

佐 沼 ロ ー タ リ ー ク ラ ブ

## LET SERVICE LIGHT THE WAY

### 奉仕の灯で 道を照らそう

例会場 七十七銀行佐沼支店ホール TEL(2)-2577  
例会日 毎週木曜日 12.30~13.30  
事務所 振興相互銀行佐沼支店 TEL(2)-2547

会長 千葉重雄  
幹事 大河内 清  
週報 白石謙造 村上武彦 小林忠秋  
阿部正美 秀 義弥

### 第751回例会

1979. 8. 30 No. 9

- ◎ **本日の出席率** 36名中28名 77.8%  
欠席会員 二階堂会員、鈴木会員、狩野会員、氏家(良)会員、及川(健)会員、若見会員、村上会員、小山会員、及川(浩)会員
- ◎ **ニコニコボックス**
  - 太田節夫会員  
8月27日41歳の誕生日を迎えられました。おめでとうございます。ますますご健勝でご発展されますことをお祈り申し上げます。
- ◎ **会長要件**  
朝夕大分涼しくなり凌ぎ易くなって参りました。本日も会員の皆様お元気で出席していただきありがとうございます。  
先週、迫川河川敷の当クラブの花壇移動の件につきましてご相談申し上げましたところ、及川(健)会員、高橋貞孝会員のご協力、特に及川会員には移動の労力を提供していただきましたことを厚く御礼申し上げます。  
8月16日の鎌田分区代理の訪問につきまして礼状が参っておりますのでご覧いたします。
- ◎ **幹事報告**
  - 先週、小山会員の所へお見舞いに行つて参りました。順調に回復されているようで、1週間に2kgくらい体重が回復しているとのことですが、何か大変スマートになられた感じで若い頃の小山会員の顔に戻られたようでした。9月の2日に退院したいというお話でした。
  - 例会場と例会日変更通知。  
盛岡RC 9月14日盛岡市南大通り村八本店に変更。  
古川RC 9月7日の例会を9月5日午後6時、駅前大通り芙蓉閣に変更。
  - 国際RC267地区の年次大会の案内が来ております。11月17、18日の2日間、徳島市文化センターで行われます。出席ご希望の方はお申し出下さい。
  - 前から国際RCアジア大会の参加をお願いしておりましたが、お申し込みがないようですので打ち切りしたいと思います。

- 252地区の昨年度収決算書が届いております。ご覧いたしますのでご覧下さい。
- 釜石RCより週報が送られてきておりますのでご覧いたします。

### ◎ 布施国際奉仕委員長

先程、台湾の台北西門クラブに手紙を出しましたところ、会長の李鳴鼎氏から次のような返信が参りましたのでご紹介申し上げます。

「拝啓、8月10日付御書面拝誦致しました。毎々の御高誼を頂き、ありがたく御礼申し上げます。

さて御来示の姉妹クラブ締結の件につきましては、去る6月、当クラブ理事会に於て原則通過致しておりますので茲にお知らせ致します。本件早速にもお知らせ致すわけではございましたが、新年度の職員交代、その他の諸事情が重なり、また、私個人の出国留守等と、本件の連絡が本日に延引し申訳なく思っております。何卒格別の御了承おき下さいませよう御願ひ致します。

御来示によりますと、来年1月末に貴会員の方々が姉妹クラブ締結と併せ当地に御来訪の由、当西門クラブを代表し歓迎の意を表しますとともに、私個人と致しまして、この上ない欣快と存じお待ちしております。どうぞお越し下さいませ。

尚、御好意による当地孤児院への運動器具ご寄贈の趣き、及び当クラブ会員の11月上旬貴地拜訪予定の件(之は小松島、伊丹有明、川崎東、諸姉妹クラブ訪問を兼ねての)数々と、貴クラブとの連絡が之よりございますので、当クラブでは国際委員長の陳茂標氏がこの任に当たることになり、逐次同氏より連絡致すこととなります故、今後とも御高見賜りますよう、よろしく御願ひ致します。

では略儀ながら貴会長はじめ貴クラブの皆様方の御健勝を遥かに祝福致します。」ということでございます。

前にも申し上げました通り、ただ姉妹クラブの締結ということだけでなく、それにふさわしい記念の奉仕事業を—ということで、西門クラブでは創立以来ずっと孤児院に対して援助と奉仕を行なっているということなので、この際運

動器具を差し上げたいと思っております。もちろんどのような種類のものにするかは未だ決めておりません。予算の面もありますのでよく研究して決定したいと思っております。

実は、このプログラムは、世界社会奉仕事業の一環として、福島パストガバナーを通してR I本部にも報告されているということです。なお、この手紙と一諸に西門クラブの週報が来ておりますが、8月14日に川崎東クラブが、姉妹クラブ締結のため訪問した時の記事が、かなり詳しく載っております。20名ほどの会員が訪問し、記念事業として台北市にカーブミラーを20基贈呈したとのこと。そのほか調印式の模様をいろいろ聞いてみたのですが、どうも経費がだいぶかかっているようです。川崎東RCといえば、会員数も多く、財政的にもかなり豊かなようで、佐沼RCとしては、これに倣うことはないと思います。

肝心なのは調印の際、クラブの代表となるのは、もちろん会長ですが、当クラブの千葉会長は健康上の理由で来年1月の調印式のための訪問が無理だと言っておられます。どうぞ体調を整えておかれて、ぜひ会員の先頭に立って訪問して下さいようお願い申し上げます。

なお、本年11月に西門クラブの会員が訪日し、当クラブにも訪問の予定がありますので、その接待のしかたなどを国際奉仕委員会を開きまして、一つずつ決めて参りたいと思っております。この事業はもちろん国際奉仕委員会だけの事業ではございませんので、全会員の絶大なご協力を得て、この意義ある事業を遂行したいと思っておりますので、よろしくようお願い申し上げます。

#### ◎ 壹岐親睦委員長

本日実施予定のA B C D合同テーブル会の件ですが、お陰様で22名の会員が出席されるということで大変喜んでおります。午後6時から6時30分までの間に会場の温州にお集まり下さい。

26日に予定しておりました釣り大会は、参加者が1名ということなので、残念ながら延期させていただきます。クラブの行事としては、やはり参加者が2割~3割、少くとも10名にならないと意味がないと思いますので、今後の行事もこの線で考えてみたいと思います。昨年の釣り大会は参加者がだいぶ多かったというのに今年は…と思っておりましたら、昨年はマージャン大会と抱き合わせだったとのことで、それでは今年10月にマージャン大会を計画しておりますので、その時、一諸に実施したいと思いません。

9月第1例会日に会員事業所訪問を企画していたのですが、事業所の都合で延期させていただきたいと思いません。

13日はソフトボール大会がありますので、その後に計画したいと思っております。将棋大会、囲碁大会につきましても、日程が最初の予定と異なって参りまして大変申し訳なく思っておりますが、改めて企画させていただきますのでよろしくご協力をお願い申し上げます。

#### ◎ 今週のスピーチ 「差別用語について」 秀義弥会員

私たちが日常使っている言葉は、万人に共通であるはずのものですが、中には偏見や人種差別、職業蔑視などによる不公平な用語が数多くあります。それが使う人によって差別的な表現となったり、蔑視となったりして、いろいろトラブルの原因となっております。

昭和30年代に入って、国民の間に人権に対する自覚や意識が次第に高まってきて、新聞、雑誌、放送などのマスコミが記事や作品の中で不用意に差別語や蔑視語を使うと、

必ず読者や視聴者から激しい抗議や訂正要求の電話、手紙がくるようになって参りました。いきおい新聞社、放送局などでは、これらの言葉づかいや表現に神経質になり、禁句集や言い換え集を作って慎重な態度をとるようになってきております。

これら差別用語や蔑視用語は、我が国の長い封建社会の身分制度や社会構造の中で形づくられてきたもので、前にお話ししたようにマスコミなどの慎重な態度にもかかわらず、不用意、不注意に発言する人々が未だに後を絶たず、特に職業の違い、身分的な欠陥などが「優越者の立場、から無知や偏見を伴って用いられるときに、いわゆる差別表現となって深刻な社会問題にまで発展することがあります。

これらの用語を大別しますと、備見によるもののほかに次のように四つに分けられます。

一つは思想的なもので、アカとか反動とかいうもの。二つは人種的なもので、黒ん坊とかチャンコロとかいうもの。三つは身体的なもので、バカとかめくらとかいうもの。四つは職業的なもので、犬殺しとか屠殺人とかいうものです。

これらの中には、更に「気違いに刃物」とか「盲蛇に怖じず」とか、「馬鹿につける薬はない」とか、マスコミが絶対禁句としている表現とか「ことわざ、が数多くあります。しかし反対に、言葉遣いや表現に極端に憶病になってしまつては、日本語や日本人が本来持っている美しい言葉の響きまでを殺してしまいかねないのではないかと心配されることもあるわけで、この一線を、どの辺に引くかということは大変難しい問題になってきているようです。

問題は、たとえば「めくら」という言葉を「めくらは何も知らない」というような形で使うことが蔑視につながるため、ある差別語、蔑視語を、単なる笑いものにするために使ったり、そのような使い方をしなくともいいような時にわざと使ったりすることが問題なのだと思います。今まで社会問題化した例をみても、抗議する方はこのような言葉を全く否定するつもりはないようです。

要は私たち一人一人が、他人に対する優越感を持たないで、相手の立場に立てば、このような不用意、不注意による差別的、蔑視的発言は少なくなるのではないかと思います。ちょっとした不注意で、知らず知らずのうちに相手を傷つける発言を、私たちは無意識の中に日常しているかも知れません。十分に注意したいものです。